

奈良県王寺町 王寺北小学校「防災研修」開催報告

- 1 日 時：平成 23 年 5 月 27 日 10 時 50 分～12 時 15 分
- 2 場 所：奈良県王寺町立王寺北小学校 体育館
- 3 講 師：NPO 法人都市災害に備える技術者の会（神戸防災技術者の会）
（陪席）NPO 法人都市災害に備える技術者の会
- 4 対象者：王寺北小学校 5 年生全員 約 60 名
担任 2 名
- 5 題 名：～阪神・淡路や東日本大震災の様子を聞き、地震への備えを学ぶ会～
- 6 内 容：
 - 1) 地震が起きたらどうしたらよいのか
 - 2) 家が倒れないようにするために
 - 3) なぜ家が倒れたのか考えてみよう
 - 4) 道路も橋も水道もつぶれた
 - 5) 東日本大震災はどんな地震だったか
 - 6) その時の生活は
 - 7) その時の友達的生活は
 - 8) 液状化（えきじょうか）の実験
 - 9) 自然災害から身を守るために
- 7 伝承活動を終えて
 - ・当日は全校で地震の避難訓練が実施され、校内放送で一斉に机の下に潜る訓練。その後校庭への避難訓練が予定されていたが、あいにくの雨模様で中止。
 - ・なぜ机の下に潜る訓練をしたのか、地震直後の片瀬の家の中の様子、特に机が倒れていない P.P を見ることから大切さを実感させた。
 - ・家が倒れないようにするためにも、折尺で筋交いの有効性を見せながら事前の対策の大切さを説明、インフラの補強の必要性も P.P を使いビジュアルに感じてもらう工夫に努めた。
 - ・子供達が危機に際して如何に活動したか、如何に耐えた生活をしたかを実感してくれたか、ボランティア活動に参加する大切さも付け加えた。
 - ・2 時間目は東日本でも目にしたデイズニーランドの液状化の P.P から、液状化現象は大変な被害を与えることを説明した後、簡易な液状化の実験をした。
水が滲み出し、マンホールに例えたフィルムケースの飛び出し、家の倒れる様子に液状化を実感した様子が伺えた。
 - ・最後に地域が共に助け合う共助の大切さ、自分で自分の命や財産を守る自助の大切さの説明の中から、自然災害に備える大切さを家庭で話し合っ貰いたいとお願いをした。
 - ・授業の感想文を読んだ時、地震の被害の恐ろしさ、そのときの生活の大変さ、液状化の感想、家でも備えを話し合う大切さなど、話した内容について各人が 2～3 項目ずつ記載しており、地震への備えの入門編としての授業の成果はあったものとする。
 - ・授業中に生徒に質問をすることで興味を抱かせることにより理解を深めると共に、聞いたことを家庭で話すことにより大人への間接的な理解を促す手段として、小学生への伝承活動の大切さを実感した。



熱心にお話を聴く子供たち



設問に答える子供たち

(以上)